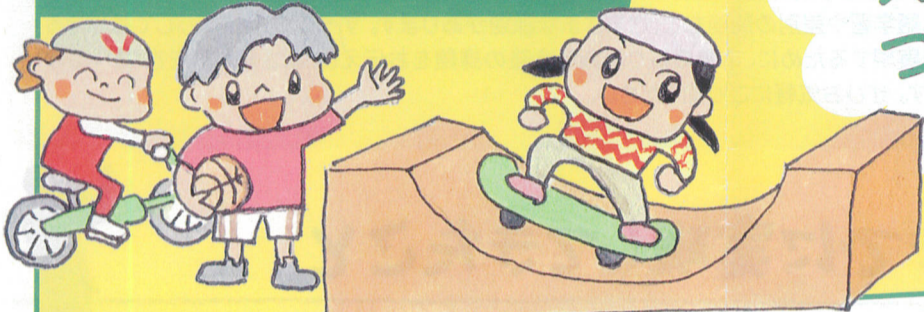


# のぐち英一郎ニュース



## みなさんの声から政策実現! 鹿児島市を変えます!

### 2026年、実現します!



### スケートパーク! ついに着工!

長年提案してきた、スケートボードやBMX、バスケの3×3などの専用施設の整備事業が決定しました。若者のニーズを捉え、鹿児島市をもっと楽しいまちに!

### 公共施設を断熱化!

避難所となる小中学校の体育館や、谷山支所の大規模改修でも断熱化が採用されます。光熱費も抑え、環境にも優しいまちに!



### 歩いて楽しめるまちに!

マイアミ通りや高見馬場交差点で歩いて楽しめるまちづくり推進事業が決定しました。



### 他にも実現します!

子どもが家庭環境にされない学習機会と居場所づくりなどのサポート

- 災害ボランティアセンター設置運営事業
- 奨学金代理返還支援に補助金
- 保育士等奨学金返済に補助金
- 高校生の海外留学支援補助
- 磯ビーチハウスの通年利用

- 子どもの遊び場や子連れで入りやすい店舗を「まぐまごasobiba100」として認定
- 放課後児童支援員の処遇改善と民間児童クラブへの補助
- 玉里団地の市営住宅建て替え

いただいたご相談をもとに、議会で質問・提案します! 実現した政策をご紹介します!



こんにちは! 鹿児島市議会議員ののぐち英一郎です!

「困ったときに一人にしません!」を掲げ、日夜たくさんのご相談をいただいています。

自由にスケボーしたい!  
奨学金の返済が苦しい!  
市営住宅に入りたいです...



## 現場主義! 活動を議会につなげます!

議会の外でたくさんの活動をしているのぐちだからこそ、リアルな政策の提案・実現につながっています。

### 男女(ジェンダー)平等の先駆け!



1期目から「男女が平等、公平公正である」ための施策を平和・教育・福祉などすべての分野で提案しています。

### 外国の方にもやさしい鹿児島へ



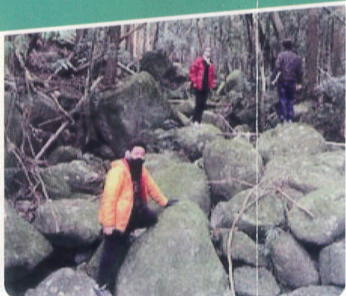
外国人が訪れてよし、住んでよしの鹿児島市にするために相談窓口、日本語教育環境の充実を進めます!

### 炊き出し活動 累計2600回を突破!



20年以上に渡り「ホームレス生活者支援合会」の一員として炊き出し活動を行っています。月イチ料理会も好評です。

### 八重山の自然を守ろう!



甲突川の源・八重山の森林が、巨大風力発電により伐採されようとしています。森を守る活動を続けています。

## 動く! 変える! のぐち英一郎ってこんな人!

1971年(昭和46年)伊集院生まれ。教員の父の赴任で3歳~6歳は与論島に暮らし、海好きに成長。玉江小、伊敷中、甲陵高12期(人文科1期)、札幌大英語学科卒(在学中、米国奨学金留学)。就職氷河期に株式会社インハウス久永に入社。参議・中村敦夫秘書を経て2000年「環境・福祉・人権」をテーマに無所属最年少で当選。現在7期目。鹿児島における議員インターンの先駆け。2016年、鹿児島市で2番目の子ども食堂を立ち上げ、現在はフードパントリー活動にも参加する。玉里団地で暮らす54歳(いのしし年)。玉江小では剣道スポーツ少年団に所属。日々、ゼロカーボンの自転車通勤で玉里団地の坂を漕ぎ上がっている。幼少から小学生の頃にかけては『ドリトル先生』『カロリーヌ』『長くつ下のピッピー』『ぐりとぐら』『大草原の小さな家』、椋鳩十、戸川幸夫、『シント動物記』が大好き。最近の好きなアニメは『葬送のフリーレン』。音楽はフレッド・アゲイン、Nakamura Emi、ホセ・ゴンザレスを愛聴している。



こんにちは、完全無所属・鹿児島市議会議員、のぐち英一郎です。みなさまは、市議がどんな仕事をしているかご存知ですか? 私は「困ったときに一人にしません!」を掲げて、日夜、市民のみなさまからさまざまなお困りごとのご相談を受けて、解決に動いています。市民の声は鹿児島市が抱える課題です。いただいたご相談をもとに市議会で当局に質問・提案して、市政を動かすのが市議の使命です。

私はこれまでの議員生活で、時代に合わない無駄遣いを10億円以上削減してきました。と同時に誰もが暮らしやすい街づくりに向けて、市電交差点の凹凸修理、子育て支援センター5カ所の存続、コネ人事を全廃、オーガニック給食の拡大などを本会議質問の積み重ねで実現しました。

間もなく物価高の対策として、国の交付金56億円の中から一人5千円のプリペイドカードのお届けや、プレミアムつき商品券発行などを実施します。しかし、これらは短期的な対策です。賃上げはまだ追いついていません。国際競争力は低下し、人口減、地球沸騰、災害多発、人手不足があり分断と孤立があります。求人のためには賃上げが不可欠ですが、それらは全て価格に反映されず物価高と賃上げがバランス良くならなければ暮らしにくいままです。

そのバランスの実現に向けて、行政もまた変化が必要です。私はデジタルなどを活用して行政のサイズを効率的に小さくして、その小さくできた成果の財とお金を、より幅広い市民ニーズに応えていける大きな役割を果たせる市役所、すなわち「小さくて大きな市役所が59万人の市民のためになる」と考えています。

コロナによる社会の混乱を経て、フェイクとルッキズムと暴力が大きな影響をもたらす時代を私たちは生きています。意見や考えの違うお互いを尊重して話を聞いて、よく考えてから表現することは争いの予防になります。平和であればこそ、その経済、地域でお金がしっかりと回ればこそ、元気で楽しいまちづくりです。そのための地味な土台を地道に作っていきます。